

令和 7 年度

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	カンガルー療育支援室横浜北部ステーション		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		～ 2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35 (家庭数36)	(回答者数) 26
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		～ 2026年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 12
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者の満足度が高い	日々、子どもたちの健康状態・目標・成長について職員間での共通理解を図り、充実した支援ができるように心がけている 支援プログラムに基づいた日々の支援が充実するように、研鑽、話し合いを重ねている	保護者からの信頼を維持・高めていけるように、子どもたちにふさわしい支援内容・目標を考え、提供できるようにする
2	子どもの健康や発達について、支援者と家庭間で共通理解ができています	送迎時と連絡帳を使って、子どもの様子を丁寧に伝え、家庭での様子を聞き取っている 面談時に使用する評価表を使って、子どもの様子を細やかにかつ分かりやすく伝えている 面談時は時間の許す限り、じっくりと話す場を設けている	今後も左記の取り組みを継続する
3	子どものことを十分に理解し、特性に応じた専門性のある支援が提供されている	外部研修に参加、内部研修の場を設け、重度の障害を持つお子さんの理解を深める機会を重ねている	外部研修に参加する機会を増やす 内部研修もさらに充実させる

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族支援が弱い(ペアレントトレーニングや研修の場が設けられていない)	直接的な家族支援の場が、ほぼ、送迎時と面談時に限られている	家族間で問題事を抱え込まないように、また、多方面から情報収集できるように、親同士がつながれる場所を提供していく
2	地域における交流や、他の子どもと活動する機会が少ない	物理的に(時間・距離)他の子どもと交流する機会を設けるのが難しい	子育て支援施設、公共施設などに出かける機会を増やす
3	長期休み中の、十分な活動等のスペースの確保、適切な職員の配置数について	長期休み中は、児童発達支援と放課後等デイサービスの利用が重なってしまう	適宜、散歩や戸外での活動などを取り入れ、室内の活動スペースと子どもの人数のバランスを考えている (安全に活動できるための職員数は常に配置している)